

旭ヶ丘キリストの教会

主日礼拝順序

2023年9月3日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	讃 美 歌 1 3 0 「 喜 べ や 」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	讃 美 歌 2 4 7 「 檻 を 離 れ 」	一 同
教会学校	絵 本 「 私 に つ い て 来 な さ い 」	牧 師
讃 美	讃 美 歌 2 9 6 「 試 み の 嵐 」	一 同
聖書朗読	使徒行伝6:1-7	雅 子
奨 励	使徒行伝の福音(第19回)	牧 師
主 題	「祈りと御言のために」	
讃 美	讃 美 歌 2 9 1 「 主 に ま か せ よ 」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	慶 一
聖 餐		
頌 栄※	讃 美 歌 5 4 1 「 父 、 御 子 、 御 霊 の 」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	使徒行伝 6:8-15	

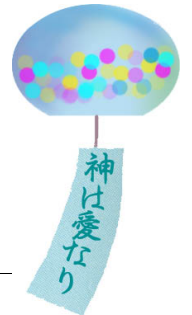
※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意しておりますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



《今週の歩み》
9/3(日)聖日礼拝
/4(月)
/5(火)
/6(水)13-15:00BS75
/7(木)10:00聖研
/8(金)
/9(土)13-16子供おブランチ



《祈りの課題》

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に來れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

ヘブル書 Devotion 第12回

静恩の時の為に

「信仰で完走！」

(ヘブル12:4-13)

ヘブル12章では何の譬が使われているのでしょうか？1節を読んでください。「忍耐をもって走り続けようではありませんか」とあるので、マラソンだと分かります。しかもマラソン・レースには沿道に観衆がいますが、「多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている」とあって、前章で語られた旧約の信仰の先輩たちが声援を送っている様子が描かれています。マラソンで大切な事は、完走することです。ところが高校時代、校内マラソン大会で“完歩”したグループがあって、物議を醸し出したことがあります。自由と剛毅が校風だったのでお咎めなしでしたが、やはりマラソンは順位よりも完走に意義があると思わされたことでした。

私たちの人生は山あり谷ありで、よくマラソンに譬えられます。時には、もう前に進めないと思うことがあります。しかし「主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられる」(6節)とヘブル書は激励のエールを送るのです。

ところで、ヘブル書が説教集であるとすれば、説教者はマラソン・レースのどこにいるのでしょうか？12章では主語が大きく3回変わります。「私たち」(1-2節)→「あなたがた」(3-25節)→「私たち」(25-29節)。明らかに、彼はレースを一緒に走っており、「あなたがた」は仲間を励ましている言葉だということが分かります。そして、「すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます」(11節)と激励しているのです。

受洗後、神学校で学びたいとの思いが湧き起こってきた時、私の最大の問題はお金と語学力でした。奨められたのがアメリカの神学校だったからです。牧師は「これは主のご用ですから、主が備えて下さいます。祈りましょう」と言われました。勤めていた会社に神学校入学の予定を伝えたところ、「新人を採用するから訓練し、受継ぎをしてほしい」とのことでした。やがてボーナスや退職金に加え、親や兄弟たちに計画を知らせると必要なお金が備えられました。「神様スゴイ！」と思った矢先、書類不備で留学はどうしても延期せざるを得なくなりました。会社に相談したところ、「申し訳ないが、主任ではなく、アルバイトとしてなら勤務可能」と言われました。一年後確実に神学校に行けるという保証はなく、「神様、これはあんまりです」とひどく落ち込みました。悔しさや不安がこみ上げてくるたびに、それらを振り払って懸命に英語・ギリシャ語・ヘブル語の学習につとめました。翌年、入学許可とビザが届き、折しも襲来していた台風の中を、成田から神学校に向けて出発することができました。あの時のことを思い出すたびに、主がなさる愛の訓練の恵みを思うのです。